

# 高関健さんロング・インタビュー



高関健 Ken Masahide Sato

前号に引き続き“ウェスタ川越『クラシック名曲の旅』”からの登場。今回は指揮者高関健さんの非常に興味深いお話をノーカットで一挙掲載です。

川越にはいらしたことがありますが、川越を積極的に訪れるのはおそろしく初めです。

オーケストラのメンバーに、「高関さんの時は、いつも演奏している曲でも新たな発見を教えてください」とも言われるのですが、同じ曲でも楽譜が違っているということがあ

最終的に完成された状態を楽譜として出版するのですから、基本的な違いはありません。演奏する私たちがどのように楽譜を読み解いて実際の音に寄り添うことができるか、いつも考えています。

楽譜というシステムは簡単で分かりやすいですが、音楽の本当に繊細な部分までは書き表せないこともあります。

例えば、民謡の独特な節回しは音符で書き表すには限界があります。また作曲家は次に浮かび上がる楽想を書き留めることに必死で、ところどころに不完全さを残したまま、先に書き進んでいる場合もあります。

私たちはこうした残された部分で、知識や経験を通じて常に補いながら演奏しているわけですが、その方法が少しくユニークで面白い、ということではないかと想像しています。

私が何か特別な発見をしているようなことではまったくありません。ベートーヴェンの5番と6番のシンフォニーの楽譜はそれぞれ何冊も持っているのでしょうか？その中で今何冊を使っているのですか？

それと、楽譜は校訂した音楽学者の判断によって、少しずつ違う形にまとまっているわけですが、私も3種類を比較検討して、自分の考え方で最も近い楽譜を使っています。

第5番は「田園」はマイトロプフ新版ですが、「田園」はまた校訂中。近年インターネットの発達により、各国の図書館などが所蔵している自筆原稿以外の重要な資料についても閲覧できるようになったので、「田園」については改めて勉強し直しているところです。

ベートーヴェンの前のハイドンやモーツァルト、そのあとの大編成になるマーラーやブルックナーと比べて、ベートーヴェンの楽譜に違いがありますか？

自筆原稿を見ると、作曲の進め方や筆致だけでなく、作曲家が置かれた当時の環境、時代背景などもわか

ハイドンは宮廷の座付き作曲家でした。お殿様の命令を受けて、毎週のように新しい曲を書くことが求められました。ですから連筆で必要最小限、原稿はところどころメモのような状態のままです。

細かい表情が書かれていないこと、細い音符が前後のバランスを考えると、演奏家が前後のバランスを考えながら補わなければならないと思います。

それに比べて、モーツァルトの原稿は、まるで神が作った音楽が彼の体を通じて流れ降りてくるような……溢れ出てくる音楽をただ書き留めてい

ればなりません。ブルックナーと違い、マーラーは完成した作品の構成に手を入れることはありません。

しかし、彼は近代の職業指揮者の元祖ともいえる名人でした。様々なオーケストラの響きが具体的な形で頭の中に浮かんでいるので、書き上がったスコアは非常に複雑です。

特に重要なことは、演奏に向かう自分でもオーケストラとリハーサルをしながら、理想とする響きを実現するために、思い通りに鳴らな

ころがあれば、楽器間のバランスの増減や強弱、演奏法など、具体的に改良の方法を指示して、その日のうちにオーケストラのパート譜にも、自分のスコアにも徹底的に書き込んでいきました。

マーラーはこの作業を繰り返したので、上演された回数が多い作品ほど書き込みが増えていき、演奏後の楽譜は元の原稿とはかなり違う状況になっています。

ベートーヴェンは専制君主の時代に活躍を始めたが、いわゆるパトロンのお抱えではなく、自由業として音楽家の地位を確立した最初の人と言われています。

そのための苦労は大変でしたが、ハイドンやモーツァルトのように締め切りを迫られることが少なく、自分のペースで作曲することができました。

れた条件を自らに課して、音楽をどこまで発展させられるか、苦心惨憺して2つの交響曲を作り上げました。

しかも、今回のように続けて聴いていたとよく分かりますが……第5番では動機を縦に積み上げ、「田園」では横に並べる方法で、まったく異なる音楽を構成することで成功しています。

第5番では人としていかにかに精神を鍛えるべきか、「田園」では文字通り「田舎について」との愉快な気分。

人間であれば誰でも持っている、精神の二面性を見事に表現した2つの交響曲を、比べながらお楽しみいただきたいと考えています。

いろいろありますが、東京交響楽団はどんなオーケストラ（またはどんな魅力のあるオーケストラ）ですか？

東京交響楽団は音楽に対する深い情熱に支えられたオーケストラです。30年前に初めて共演しましたが、印象はまったく変わらな

りません。しかも近年メンバーひとりひとりの努力により、さらに洗練された素晴らしい演奏を展開しています。

**経営・ビジネス情報** \ 相談会など毎月開催しています / お申し込みは主催者まで。 お問い合わせは創業支援ルーム TEL. 049-249-1185

**女性創業相談会 in ウェスタ川越** 3/14(木) 10:00~16:00

**セカンドキャリア(シニア)創業相談会 in ウェスタ川越** 3/9(土) 10:00~16:00

■会場:5階創業支援ルーム内 ■相談時間:50分 ■費用:無料

■主催:創業・ベンチャー支援センター埼玉(公益財団法人 埼玉県産業振興公社)

※詳細・お問い合わせは、創業・ベンチャー支援センター埼玉HPか、048-711-2222まで

**経営力向上ミニセミナー** 3/6(水)・13(水) 18:00~20:00

会場:5階創業支援ルーム内

■日時:3/13(水)・14(木)・27(水) 9:00~17:00

■会場:5階創業支援ルーム内 ■費用:無料

■主催:公益財団法人 埼玉県産業振興公社 埼玉県よろず支援拠点事務局

※詳細・お申し込みは、公益財団法人埼玉県産業振興公社HPか、0120-973-248まで

毎日楽しく、UNICUS

UNICUS(ユニクス)はラテン語で“オンリーワン”の意味。あなたの毎日がきっと楽しくなります。

UNICUS

ユニクス川越 <http://www.unicus-sc.jp/kawagoe/>

ユニクス南古谷 <http://www.unicus-sc.jp/minamifuruya/>

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町1-17-17

westa kawagoe

お問い合わせ 049-249-3777

施設予約専用 049-249-1182

9:00~19:00(点検日等の休館日を除く)

info@westa-kawagoe.jp

■JR川越線、東武東上線「川越駅」西口より徒歩約5分

■西武新宿線「本川越駅」より徒歩約15分

■「本川越駅」よりバスをご利用の場合

■「本川越駅」西武バス乗り場 ①番

・新所02、本55系統「川越駅西口」下車 徒歩約5分

・本53、本54系統「ウェスタ川越前」下車すぐ

■「本川越駅」西武バス乗り場 ②番

・川越35、川越35-1系統「ウェスタ川越前」下車すぐ

●駐車場は左折での入場となります。●利用料金:入庫後1時間無料以後1時間ごとに200円。●駐車場は204台分ありますが、大変混雑が予想されるため、なるべく公共交通機関をご利用ください。